

Cubase LE を使った録音

Cubase LEは、Steinberg社より供給された製品のため、弊社ではサポート対象外となっております。ご使用方法につきましては、Cubase LEのヘルプメニュー（PDFマニュアル）をご参照いただきますようお願い致します。

目次

本書の表記	1
商標に関して	1
録音するには	2
準備	2
録音	5
ミックスダウン	6
トラブルシューティング	7

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- パソコンのディスプレイに表示される文字を《OK》のように《 》で括って表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などをします。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

商標に関して

- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- Microsoft, Windows, Windows XP, Windows 7, および Windows 8 は、米国およびその他の国におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。
- Apple, Macintosh, Mac OS および MacOS X は、Apple Inc. の商標です。
- CubaseとVSTは、Steinberg Media Technologies GmbHの登録商標です。ASIOはSteinberg Media Technologies GmbHの商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

Cubase LE を使った録音

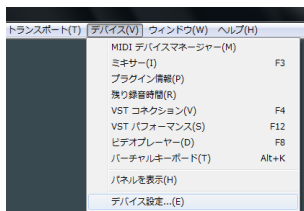
録音するには

Cubase LEはWindows XP、Windows 7、Windows 8、Mac OS X とも、設定内容は同じです。

以下の画面は、Windows 7 でUS-144MKIIを使用した場合の例です。

準備

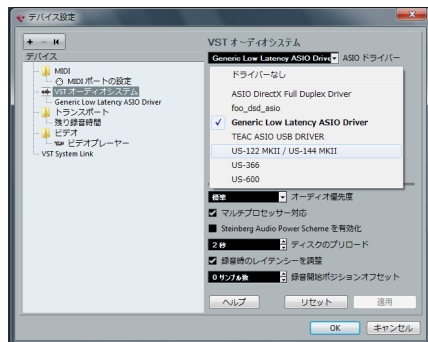
1. Cubase LEを起動し、《デバイス》メニューから《デバイスの設定...》を選択します。



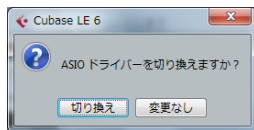
メモ

Cubase LEを起動後、《プロジェクトアシスタント》画面が開いている場合には、右下にある《キャンセル》ボタンを押して閉じてください。

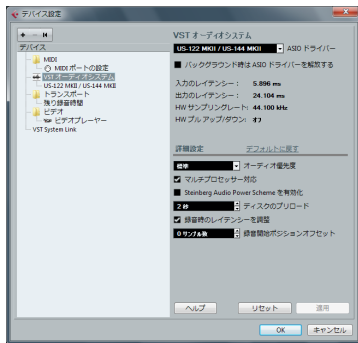
2. 《デバイス設定》画面の左側の《VSTオーディオシステム》をクリックし、右側の《ASIOドライバ》プルダウンメニューから《US-122 MKII / US-144 MKII》を選択します。



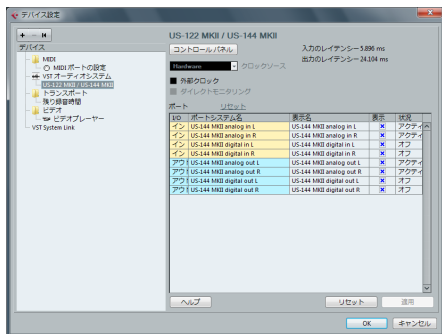
3. 以下のダイアログが表示されますので、《切り換え》ボタンをクリックします。



以下の画面が表示されます。



4. 《デバイス設定》画面の左側の《US-122 MKII / US-144MKII》をクリックし、右側の《I/O》ポートがUS-144MKIIのポートになっていることを確認してください。確認後、《OK》ボタンをクリックします。

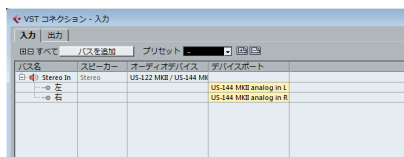


Cubase LE を使った録音

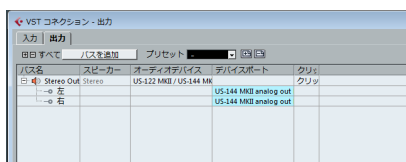
5. 《デバイス》メニューから《VSTコネクション》を選択します。

《入力》および《出力》タブの《デバイスポート》がUS-144MKIIになっていることを確認してください。

確認ができたならダイアログを閉じます。



[入力タブ画面]

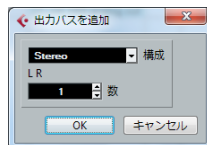
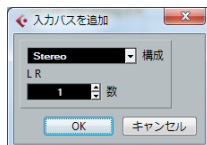


[出力タブ画面]

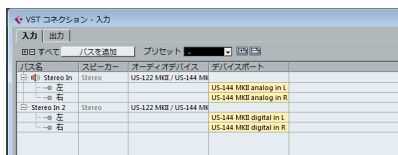
ヒント

US-144MKIIのデジタル入出力をCubase LEの入出力として使用する場合は、《VSTコネクション》ダイアログの入力タブおよび出力タブで、デジタル入出力を追加してください。

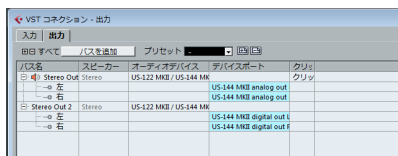
- 《バスを追加》 ボタンをクリックします。
- 以下のダイアログが表示されますので、構成は《Stereo》、数は《1》に設定し、《OK》ボタンを押します。



表示内容が以下のようになり、デジタル入出力が使えるようになります。



[入力タブ画面]



[出力タブ画面]

Cubase LEでは、同時に使用できるバスの数に制限があります。詳細につきましてはCubase LEのヘルプメニュー（PDFファイル）をご参照ください。

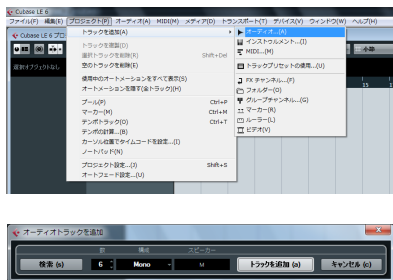
Cubase LE を使った録音

6. 《ファイル》メニューから《新規プロジェクト》を選択し、表示される《プロジェクトアシスタント》ウィンドウから、希望のテンプレートを



メモ

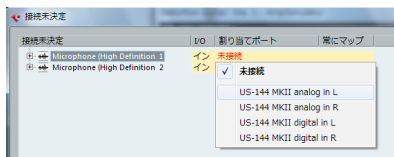
テンプレートで《その他》→《Empty》を選択した場合、《プロジェクト》メニューの《トラックを追加》項目を使って、オーディオトラックを追加してください。



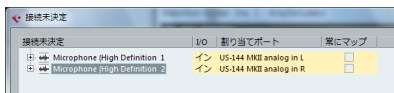
メモ

選択したテンプレートによっては、《接続未決定》の画面が表示されることがありますが、その場合、《割り当てポート》欄の《未接続》の文字上をクリックして表示されるメニューから、割り当てたいポートを選んでください。

[接続未決定 / 未接続]



[接続未決定 / メニュー選択]



[接続未決定 / ポート選択後]

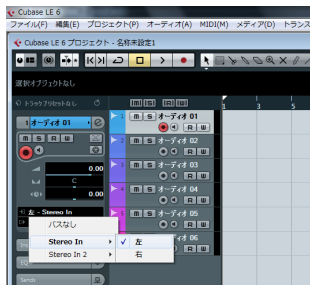
ヒント

ボーカルやアコースティックギターなどをマイク1本で録音する場合は、モノトラックを作成し、そこに録音します。ピアノをマイク2本でステレオ録音したり、キーボードなどをステレオライン入力で録音する場合は、ステレオトラックを作成し、そこに録音します。

Cubase LE を使った録音

録音

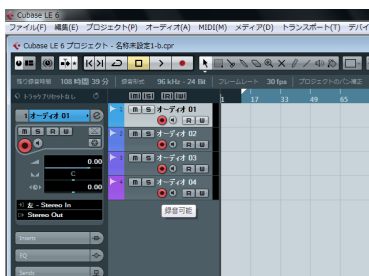
1. 録音するトラックを選択し、画面左の《インプットのルーティング》フィールドで入力バスを選択します。



このとき、モニタリングオンボタンを押しておく、入力をモニターすることができます。



2. すべてのトラックの入力バス選択が終わったら、録音を行うトラックの《録音可能》ボタンをクリックしてオン（赤く点灯）にします。



3. トランスポートの《録音》ボタンをクリックして録音を開始します。



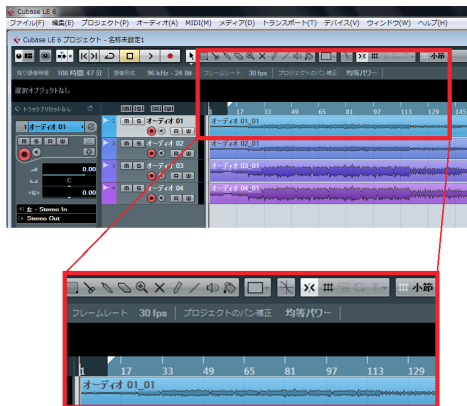
4. 録音が終了したら《停止》ボタンをクリックし、《録音可能》ボタンをクリックしてオフ（消灯）にします。
必要に応じて巻き戻しなどの操作を行います。

5. 上記の1.～4.を繰り返して音を重ねていきます。

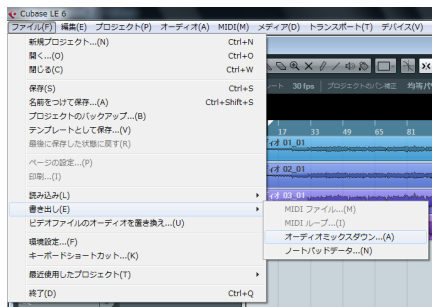
Cubase LE を使った録音

ミックスダウン

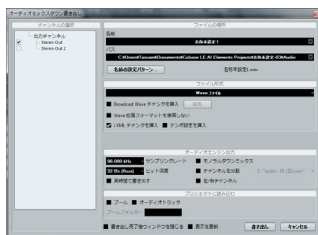
1. 左右のロケーターを動かして、ミックスダウンしたい範囲を指定します。



2. 《ファイル》メニューから、《書き出し》→《オーディオミックスダウン》を選択します。



3. 《オーディオミックスダウンの書き出し》画面の各項目を設定し、《書き出し》ボタンをクリックします。



この画面では、書き出すファイルのファイル名、保存場所、ファイルフォーマット、サンプリングレート(サンプリング周波数)、ビット深度(ビットレート)などを設定します。

4. 書き出し中は、以下のような画面が表示されます。



書き出しが終わったら、《オーディオミックスダウンの書き出し》画面の《閉じる》ボタンをクリックして画面を閉じます。これで、ミックスダウンファイルが3.で設定した内容に従って書き出されました。

Cubase LE を使った録音

トラブルシューティング

本章では、Cubase LEを使った録音について、よくある質問とその回答を紹介します。

Q1: 入力の設定はすべて終わったのですが、オーディオトラックのメータが振れません。

A1: トラックのモニタリングオンボタンが押されていることを確認してください。



Q2: 2チャンネル同時にステレオ録音したいのですが？

A2: 録音するトラックがステレオであるかを確認し、録音するトラックを選んでください。ステレオトラックが存在しない場合は、《プロジェクト》メニューから《トラックを追加》→《オーディオ》を選択し、必要数のステレオトラックをご用意ください。

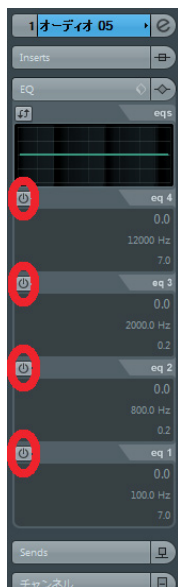


ステレオトラックのときは、下図のように入力表示が《Stereo In》等の表示となります。



Q3: EQを使用したいのですが、効果がありません。

A3: VSTチャンネル設定等で、EQスイッチがオフになっているかどうか確認してください。



[EQ オフ]



[EQ オン]

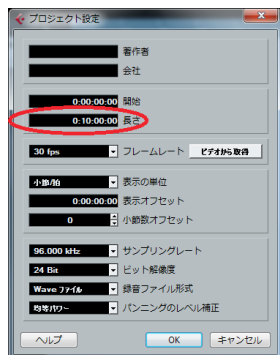
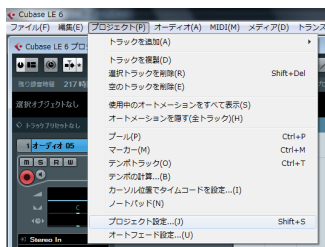
Q4: 3分位の曲をミックスダウンしてみたのですが、10秒程度しかできません。

A4: 左右のロケーター範囲が、3分以上になっていることをご確認ください。

Cubase LE を使った録音

Q5：ロケーター範囲が、ある範囲以上設定できません。

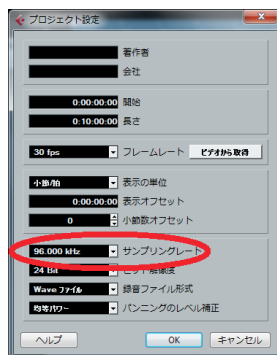
A5：《プロジェクト》メニューから《プロジェクトの設定》を選択し、《プロジェクト設定》画面内の《長さ》を調整してください。



Q6：ミックスダウンしたWAVファイルをCD化しましたが、明らかにスピードが違います。

A6：プロジェクト設定が、48kHzの設定になっていないでしょうか？

最終的にCD作成が目的であるならば、あらかじめ44.1kHzでの作業をお勧めいたします。設定方法は、《プロジェクト》メニューから《プロジェクト設定》を選択し、《サンプリングレート》を《44,100Hz》に設定してください。



Q7：入出力機器（楽器、マイク、モニターシステムなど）を接続したのですが何も聞こえません。

A7：オーディオインターフェースの入力レベルが上がっていることを確認してください。

入力がアナログの場合は、信号が入力されるとシグナルインジケーターが点灯します。モニター（またはヘッドホン）のレベルが上がっていること、正しく接続されていることを確認してください。

Q8：音が歪んで聞こえます。

A8：信号がオーバーロードしていないかどうか確認してください。

アナログ入力信号の場合は、オーバーロードインジケーターが時々赤色に点灯する程度が適正レベルです。